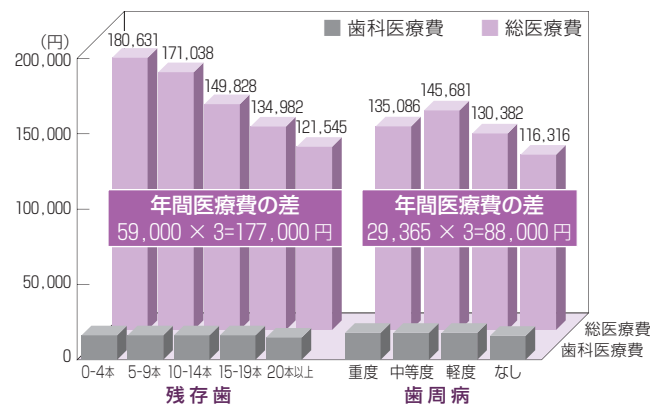


「えー 医療費にこんな差が？」

前回までは、就職後は法的な裏付けの下での歯科健診がなく、唯一の歯科歯周病検診でさえ、受診率が低いうえに、奈良県下の市町村でも、かなりの差があることを2回に分けてお話ししました。最終回は、皆様方も関心事でありましょう歯科と医療費との関係についてお話しします。

(図1)をご覧ください。これは、香川県で作成された資料です。(平成17年2月に歯科を受診した65歳以上の人を対象に平成16年2月・5月・8月・11月診療分の医科レセプトと突合し、分析したものです。)明確に、残存歯数の少ない人、歯周病の進んでいる人が、驚いたことに歯科ではなく医科の医療費が高いことがわかります。また、(図3)では、他の地域でも同様の傾向が認められます。そもそも、口腔内の問題が(図2)に示すように医科領域の問題とも密接に関係していることから考えれば当然の結果かもしれません。

図1 口腔と全身疾患との関係—歯数と医療費
残存歯・歯周病の程度と歯科医療費、総医療費



歯科受診については、まだまだ、症状が出てからでないと、それもかなり放置して、やっとのことで受診される傾向があります。よほど、皆様は歯科受診がいやなんでしょう。ですから、歯科健診、歯周病検診の機会があっても、希望者を募った場合には、おおよそ口腔内に問題が多い人ほど受診されない傾向があります。今、貴組合で実施されています、歯周病検診も受診者が10月末で対象者の約5%にすぎません。現在加療中の方や、定期的に受診されている人は別として口腔内に問題があり、不便を強いられている人ほど、受診されていないと思いますが読者の皆様いかがでしょうか？そういう人ほど、結果として、歯科受診は無くとも総医療費が高くなっていることに気づいていただきたいです。余談ですが、今年、7月に閣議報告された「社会保障・税一体改革成案」の中に、現在の高額療養費の負担軽減の財源捻出のために、「受診時定額負担制度」を盛り込むことが示されました。決定すれば、明らかに患者負担増になり結果として受診抑制も考えられ、ますます、健康を害している人は酷くなるまで放置し、結果医療費もさらに上がっていくように思いますが、皆様はいかが思われるでしょうか？

最後に、近年の多くの調査・研究から、全身疾患や生活習慣が口腔保健で大切な歯周病の発症や進行に影響を与えるだけでなく、歯周病そのものも生活習慣病に影響を及ぼし、QOLを低下させ、健康寿命を縮めていることが分かってきています。また、最近では(図2)に示したように、歯周病は口腔のみに限らず、全身の健康との関連で注目されることが多くなっています。平均寿命もさることながら、健康寿命を延ばす意味でもかかりつけ歯科医と相談しながらいつまでも健康を維持していただくきっかけになれば幸いです。皆様方のご健康を祈念し筆を置くことにします。

お問い合わせ

(社) 奈良県歯科医師会

〒630-8002 奈良市二条町2丁目9番2号

TEL 0742-33-0861 <http://www.nashikai.or.jp/>



(社)奈良県歯科医師会
理事
上田 晴三